

漢字は、こんなにすぐ覚えられる

これには、わたしはまったく驚いてしまいました。一学期かかっても、一文字のかなも覚えられないというのに、「箒」などという、複雑な形をした字が、たった一回の指導で、どうして覚えられたのでしょうか。

けっきょく、これはつぎのように説明できると思います。つまり、箒の実体は、この子もよく知っている品物である。そのよく知っている実体と、「箒」という字形とを結びつけば、それで覚えられたということになるわけですが、この字形には、箒そのものを連想させるなにかがあるにちがいない……と。

この学習は、「ほ」という抽象された音声と、「ほ」という字形とを結びつける学習に比べたら、ずっとずっとやさしいわけです。この子のように、能力の劣った子どもでは、「ほ」というような、意味のない音声を頭の中に描くことは、実にむずかしい仕事なのです。そのうえ、「ほ」という音声と、「ほ」という字形を結びつける、なんの手がかりもないのです。それは、能力のすぐれた子どもでも、実にむずかしい仕事です。

漢字には顔がある

いずれにしても、漢字には一年生の子どもにとって、実に覚えやすいなにかがあることだけは確かです。それは、どうしても、漢字が、一字で一つの意味をもっているということだと思います。「牛・馬・羊…」、漢字は一字一字が、実体をもっていて、その字を、ちらっと見ただけで、すぐに実体が頭の中にきれいに描かれるからです。

「漢字は生きている」わたしはそう思っています。「はし」では、なんの意味もありません。しかし、「橋」「箸」となりますと、はっきりと、その実体が頭の中に浮かんできます。

「うし」「うま」のばあいは、「はし」に比べたら、もっとはっきりしています。しかし、「うしのう」も「うまのう」も同じ字です。こういう文字では、小さな子どもたちには、わかりにくく、おもしろみがないのがあたりまえです。

これに比べて、「牛」「馬」という字は、生きているではありませんか。字が、はっきりとした固有の顔をもっているのです。子どもたちの目には、とても印象的にうつり、すぐに覚えられてしまうわけです。